

校長室だより

共学共高

第
89
号

令和 7 年 10 月 7 日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武 内 彰

二学期の授業～その6

10月3日（金）5時限目の授業は、1年5組の「英語コミュニケーションⅠ」である。授業者はT先生（第88号のT先生とは異なります）である。T先生もチャイムが鳴る前から教室で準備をしている。すでに電子ボードに英文が映し出されている。チャイムが鳴るとあいさつを交わして授業開始である。

はじめに前時までのストーリーの復習である。カナダの高校生から、徳島県上勝町の高校生へ最初のメールが届いた。それは上勝で行われているごみゼロ政策（zero-waste）についての質問であった。カナダの高校生たちは、打ち上げられてくる海洋ごみを何とかしたいと考えている。そこで、環境部をつくって話し合いをした。また、上勝の動画を見て感動してメールを送ったという。そこには4つの質問があった。

- ① zero-waste 政策の前のごみ処理はどのようにしていたのか。
- ② 新システム導入にあたって、どのような困難があったか。
- ③ 人々の意識は変わったか。
- ④ アドバイスがほしい。

T先生が電子ボードにメールの英文を映し出しながら確認していく。上勝の高校生からの返信は、「zero-waste 政策は、ごみを出さないことではなく、できるだけリサイクルすることである」そのうえで、①と②に対する回答は次のようになる。

- ① 一般的には可燃物と不燃物を分別し、再利用できるものと分けるが、上勝では、焼却炉がないので、ほとんどのごみを畑で燃やしていた。
- ② リサイクルは45種類の区分に分けなければいけないこと。

ここまでの復習である。今日は、③と④の質問に関する内容を確認していく。まずは、教科書にある Comprehension 5 をみる。そこには、英文で「上勝では紙ごみを持ってくと景品がもらえる」と書かれていて、そのあとに True か False かをチェックする欄がある。予習をしてきているのが前提で、先生がいずれかに挙手を求める。True に手が挙がる。続いて該当する本文を一文ずつ指名された生徒が訳していく。先生は、各文の押さえておくべく熟語などを説明していく。本文では、「異なる種類のリサイクル用の紙ごみを持ち込むことによって、ポイントを得ることができる。例えば、紙くずをいっぱい詰めた紙袋又は牛乳

パック 5 枚セットで 1 ポイントを得ることができる。そうして、ポイントをトイレトペーパーなどに交換することができる。」「このキャンペーンを説明した町のポスターをメールに添付した」ことが明らかになる。結果は、True である。私は、単に紙ごみを持ってくるだけではなく、条件があるから、False かなと思ったが、生徒たちは迷わなかったのだろうか。



次は、教科書に Comprehension 6 の確認である。英語で、上勝では人々が以前よりも長く物を保管している」と書かれている。生徒の True と False は挙手が分かれる。英文を一文ずつ、指名された生徒が和訳していく。本文では、「役に立つかもしれないから捨てる前に慎重に考えるようになった」とあるので、True が正しいことになる。

最後は、Comprehension 7 である。「新しいリサイクルシステムを導入するのは、早く簡単である」という英文がある。生徒の挙手は False が多い。指名された生徒が和訳して本文を確認していくと「人々はそれぞれ固有の考えがあるので、変えていくには時間がかかる。システムの利点を説明して・・・」とあるので、False が正解である。

こうして本文の内容確認が終わり、T 先生からの投げかけが映し出される。「How is your town similar or different from Kamikatsu?」いい投げかけだと思う。これにしたがって、ペアになって、英語で話し合せて、何人かに発表してもらったら面白い。残念ながら、ここで終わりのチャイムとなり、これは次回の授業へ持ち越された。

英語の教科書もさまざまなトピックスを扱っているのだなと感心する。私は都立に勤務していたとき、英語の入試問題でさまざまなトピックスを考えてつくる困難さを目の当たりにしていたので、そう感じるのかもしれないが。

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)